

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月25日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520366

研究課題名（和文） 中国における人化異類変身譚の研究

研究課題名（英文） A study on tales of transformation from human beings to animals or plants in China

研究代表者

岡田 充博 (OKADA MITSUHIRO)

横浜国立大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：40126842

研究成果の概要（和文）：（1）漢代以前の総ての変身譚を調査し、その結果を論文「先秦時代の變身譚について」として発表した。（2）漢代以降については、變驢變馬譚（驢馬や馬への變身の話）と化虎譚（虎への變身の話）を中心に調査検討を進め、その成果を著書『唐代小説「板橋三娘子」考』に纏めて刊行した。（3）『太平広記』卷四六〇に見える李相公（李石）の話が、インドの説話に起源を持つことを発見・論証し、論文「睫毛と鏡」として発表した。

研究成果の概要（英文）：（1）Researched on all tales of transformation before Han (漢) Dynasty, I wrote a thesis "A study of tales of transformation before Han Dynasty". (2) About after Han Dynasty, I mainly researched on tales of transformation from man to donkey or horse, and tales of from man to tiger. And collected studies, published "A study of < Ban qiao san niang zi(板橋三娘子)> a story of transformation from man to donkey in the Tang (唐) Dynasty". (3) A story of "Li-shi (李石、李相公)", which is printed in "Tai ping guang ji (太平広記)" vol.460, has a original story in India. I found this fact, wrote a thesis "Eyelash and mirror".

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	200,000	60,000	260,000
2011年度	100,000	30,000	130,000
年度			
年度			
総計	800,000	240,000	1,040,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：中国文学・変身譚・「板橋三娘子」

## 1. 研究開始当初の背景

「変身」は、人間にとって太古からの深い興味関心、あるいは畏怖畏敬の対象であり、無数の変身譚が生み出されてきた。それは大別すれば動物や植物などが人に変身するも

のと、逆に人が動植物や無機物に変身するものの二種類に分かれるが、中国の説話・小説においては前者が主流とされる。しかし、後者の話も決して無視することの出来ない量と質を有し、殊に唐代においては「人虎伝(李

徴)「魚服記(薛偉)」などの著名な作品、あるいはインド古典小説集に原話を持つ、「板橋三娘子」などの異色の翻案作品を生んでいる。

従来の中国変身譚研究は主流である前者に注目することが多く、傍流に属する後者の変身譚に関しては、著名な「人虎伝」「魚服記」等についての個別研究は別として、概ね零細で未開拓の状況にあると言ってよい。

本研究は、そうした現況に鑑み、後者に属する変身譚—中国の研究者の命名を借りて「人化異類変身譚」と呼ぶことにした—を対象とし、これを可能な限り総合的・通時的に考察してみたいという構想のもとに始められた。

ただ、人化異類変身譚の内容もまた多岐にわたり、その数も膨大である。そこで、その中から数量的にも多く、特徴的な話群と言える変驢変馬譚と化虎譚に焦点を絞り、これを軸に中国における人化異類変身譚の特質を探ることとした。

なお、変驢変馬譚を対象とした今一つの理由には、かねてから継続中の「板橋三娘子」(人を驢馬に変身させる妖術使いの女将の話)に関する考察と本研究の成果を融合させたい意図があったことを付記しておく。

## 2. 研究の目的

(1) 中国の変身譚のうち、傍流とされる人化異類変身譚に焦点を当て、その特徴・特質を探る。

(2) 多岐にわたる人化異類変身譚の中から、特に変驢変馬譚および化虎譚を取り上げ、より詳細な検討と考察を加える。

(3) 化虎譚に関しては、ヨーロッパの人狼変身譚と比較検討することによって、その中国的特質を鮮明にさせる。

(4) 変驢変馬譚に関しては、これを総合的通時的に考察し、さらにその中の異色的一篇である「板橋三娘子」の詳論を通じて、中国の変身変化観および人化異類変身譚の特性を浮かび上がらせる。

(5) 人が死後に動物に転生する、所謂「輪廻転生譚」もまた人化異類変身譚の一種と見なし、中国人化異類変身譚中に輪廻転生譚が占める位置について検証する。

(6) 変身や転生の古い物語を数多く有する、インドの仏典や古代説話の中国への伝播と影響について考察する。

## 3. 研究の方法

(1) 上古から漢代にかけての中国の変身譚を対象とし、資料を総合して再検討と分析を加える。これによって、中国古代の変身観および変身譚の基本的な特質・特徴を把握し、以後の変身譚へと繋がる伝統的普遍性、上古においてのみに見られる特殊性について明らかにする。

(2) 次に漢代以降の変身譚を対象を移し、人化異類変身譚を対象として考察を行う。

多岐にわたる人化異類変身譚総てを対象とすることは困難であるため、その中の変驢変馬譚および化虎譚に焦点を絞るが、他の変身譚も視野に入れる。また宋代以降の変身譚についても、可能な限り広汎に資料調査を行う。なお調査の際、下記の論考を参照し、資料集としても活用する。

・澤田瑞穂「メタモルフォーシスと変鬼譚」(『中国の民間信仰』工作舎、一九八二年)

(3) 化虎譚に関しては、ヨーロッパの人狼変身譚と比較資料として取り上げる。「人狼」に関する研究は、ヨーロッパにおいては膨大な数に上ると言われるが、この方面の知識を欠く。そのため本研究においては便宜上、邦訳および邦人の研究に拠ることとした。主要な参考文献を示せば、下記の通りである。

・伊東一郎「スラヴ人における人狼信仰」(『国立民族学博物館研究報告』六巻四号、一九八一年)

・池上俊一『狼男伝説』(朝日新聞社、一九九二年)

・篠田知和基『人狼変身譚——西欧の民話と文学から』(大修館書店、一九九四年)

・井本英一「人狼月をめぐる」(『イラン研究』5、二〇〇九年)

・セイバン・ベアリング・グールド『人狼伝説——変身と人食いの迷信について』(人文書院、二〇〇九年)

(4) 変驢変馬譚に関しては、これを<一>応報譚系(仏教の因果応報思想に基づく話)、<二>『出曜経』系(薬草など不思議な飲食物による変身の話)、<三>『カタール』『千一夜』系(不思議な製法の食べ物で人を驢馬や馬に変える魔女と、その魔女を逆に騙して動物に変える男の話。この話の原話はインド古代説話集『カタール・サリット・サーガラ』および中近東の『千一夜物語』に見える)、<四>その他、の四種類に分けて考察する、なおこの変驢変馬譚については、日本の変馬譚とも比較する。その際、下記の文献を基礎的研究として活用する。

・中村禎里『日本人の動物観 —変身譚の歴史—』(一九八四年、海鳴社)

(5) 輪廻転生譚に関しては、インド仏教思想と、中国におけるその受容と変容の実情についても考察する。その際、中国において大量に産出されることとなった、所謂「畜類償債譚」に注目してみる。「畜類償債譚」とは、負債を残して死んだ者が、債主の家畜に生まれ変わり、返済のために働く話)。なお、この考察に必要な資料の収集は、下記の二論文を基とし、これに変驢変馬譚として採取した新資料を付加する方法を採る。

・澤田瑞穂「畜類償債譚」(『仏教と中国文学』国書刊行会、一九七五年)

・澤田瑞穂「釈教劇叙録」(同書)

(6) インドの仏典や古代説話集中の変身譚については、やはり知識を欠くため、下記の邦人の翻訳および研究を参照する。

・ゾーマ・デーヴァ著、岩本裕訳『インド古典説話集 カター・サリット・サーガラ』全四冊(岩波文庫、一九五四～六一年)

・岩本裕『仏教説話』(筑摩書房、一九六四年)

・澤田瑞穂『仏教と中国文学』(国書刊行会、一九七五年)

#### 4. 研究成果

本研究の調査結果および研究成果は、学会発表、紀要・学術誌掲載論文のほかに、学位取得論文『唐代小説「板橋三娘子」考—東西変驢変馬譚の伝播と変遷—』、およびこれに補足改訂を加えて刊行した『唐代小説「板橋三娘子」考—西と東の変驢変馬譚のなかで—』に織り込む形で公表した。以下、研究成果の記述においては、該当箇所当たる章・節を記すかたちで適宜示しておく。

(1) 先秦時代の資料を調査した結果、①現存する零細な資料に基づくという限定付きではあるが、神話における変身は、人あるいは神から動物への変身によって占められ、後世とは異なること、②それらの変身は概ね、刑罰・遺恨などによる、死を介在させた受け身の変身であり、この基本的性格は、以後の中国の人化異類変身譚にも引き継がれてゆくこと、③ただし、死を介在させない、超能力による変身の話も存在したと考えられること、等を確認することができた。

なおこれらの考察は、論文「先秦時代の変身譚について」として発表の後、『唐代小説「板橋三娘子」考』第三章第一節「中国の変身譚と変身変化観」の第二項「動物への変身—神仙」に編入した。

(2) 化虎譚および変驢変馬譚の資料を広く採取し、主要あるいは重要な資料については、『唐代小説「板橋三娘子」考』の第三章第一

節「中国の変身譚と変身変化観」、および同章第二節「中国の変驢変馬譚と「板橋三娘子」」に紹介して論じた。

(3) 化虎譚に関しては、第三章第一節の第四項「変身術—化虎譚の場合」において、ヨーロッパの人狼変身譚と比較しつつ論じた。その結果、①中国の化虎譚の多くは、病氣・天罰などによる受け身のものであること、②化虎譚に登場する変身術について調査すると、仙術による自由な変身か、あるいは南方辺地の少数民族の邪術でほぼ占められる。特に後者は、清朝に至っても現実に存在すると考えられていたこと、③この点、人から狼への変身を否定しながら、民間に根強く生き続ける人狼信仰・伝説を内に抱え込むことになった、キリスト教以後のヨーロッパとは対照的であること、④恐怖小説の産出の母胎としては、ヨーロッパの人狼に軍配が挙げること、等が明らかとなった。

(4) 変驢変馬譚に関しては、調査考察の結果、①中国の場合、<一>の応報譚系の話が圧倒的に多く、<二>『出曜経』系、<三>『カター』『千一夜』系の話は極めて少ないこと、②<三>系に属する「板橋三娘子」は、異色の小説として珍重されたものの、後継を生み出すことは稀であったこと、③その原因として、不思議な食物による急激な変身という発想が、中国の伝統的な変身術・変身観の中では受け容れにくいものであったと考えられること、③この点、<二><三>系の話近世以降好んで受け容れた、日本とは対照的であること、等が明らかとなった。

なお、中国の変驢変馬譚については『唐代小説「板橋三娘子」考』の第三章、日本の変驢変馬譚については同書の第四章で詳しく論じた。

(5) 中国の輪廻転生譚について調査した結果、人化異類変身譚中に占める数量の多さが再確認された。また、インド仏教思想と異なる点として、その現世的性格が明らかになった。

特に「畜類償債譚」においては、償債を終えた家畜の死後が注目される。多くの償債譚はそのことに特に触れないが、文中に記される場合は総てこの世に人として生まれ変わることとなっている。ここには、現世を「苦」として否定するインド仏教思想とは異質の、中国的な現世肯定の思想が窺われる。この点については、『唐代小説「板橋三娘子」考』第三章第二節の第一項「応報譚系」において論じた。

(6) インド古代説話の中国への伝播を物語る資料として、『太平広記』巻四六〇および

『雲笈七籤』卷一一三に見える李相公(李石)の話をも新たに発見した。不思議な能力を持つ道具や動物の羽・睫などによって、前世や来世の姿を見るという発想は、インドのバイガ族に伝わる民話や、遡っては古代説話集『カタール・サリット・サーガラ』に見られる。鶴の睫毛で人の前世の姿を見るという李石の話は、明らかにインドに起源を持つものと言える。この発見については、名古屋大学中国語学文学会での発表の後、「睫毛と鏡 一前世・来世の姿を見る呪宝一」と題して論文にまとめた。

応報譚・輪廻転生譚の他にも、インド発祥の様々な説話が中国に伝えられたと考えられるが、この話は「板橋三娘子」などと共に、そのことを示す確かな証拠の一つとなろう。

(7) 本研究の最終年度のまとめとして、上記の『唐代小説「板橋三娘子」考 一西と東の変驢変馬譚のなかで一』を刊行したが、本書は、「板橋三娘子」を総合的に論究し、併せて中国における人化異類変身譚の包括的な把握を試みた、最初の専著である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ①岡田充博、睫毛と鏡 一前世・来世の姿を見る呪宝一、名古屋大学中国語学文学論集、査読無、23巻、2011、27-39
- ②岡田充博、「板橋三娘子」校注稿、横浜国立大学教育人間科学部紀要Ⅱ(人文科学)、査読無、13巻、2011、24-12
- ③岡田充博、唐代小説「板橋三娘子」考 一東西変驢変馬譚の伝播と変遷一、学位請求論文(名古屋大学 論文博第141号)、査読有、2010、1-311
- ④岡田充博、先秦時代の変身譚について、横浜国立大学教育人間科学部紀要Ⅱ(人文科学)、査読無、12巻、2010、66-57

[学会発表] (計2件)

- ①岡田充博、『太平広記』卷四六〇および『雲笈七籤』卷一一三に見える「李相公(李石)」の話をめぐって、名古屋大学中国語学文学会、第20回例会、2012年、名古屋大学文学部
- ②岡田充博、六朝唐代の小説に見える西域起源の説話について、東方学会、第59回全国会員総会、2009、日本教育会館

[図書] (計1件)

- ①岡田充博、唐代小説「板橋三娘子」考 一西と東の変驢変馬譚のなかで一、知泉書館、2012、615

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

岡田 充博 (OKADA MITSUHIRO)  
横浜国立大学・教育人間科学部・教授  
研究者番号：40126842

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：